

ロピア進出 道内流通は で どうなる?



札幌市内にあった西友の全店舗が9月末に閉店し、イオン北海道の看板に様変わりする。時期を同じくしてヨーカドーから引き継いだダイイチが9月27日、帯広「稲田店」をオープン。さらに注目されているのが、道内初となるロピアの進出だ。ヨーカドーと西友の相次ぐ撤退で、流通再編の「第三の波」は到来するのか。その背景を探り、今後を占ってみた。

「福住」ビッグ化でロピアと対決

イオン北海道に引き継がれることになった「西友」の9店舗については、「表1」を参照いただきたい。

「西町」「平岸」「旭ヶ丘」「清田」「厚別」「手稲」の6店舗が総合スーパー「イオン」に、「福住」「元町北二十四条」の2店舗がディスカウントストア「ビッグ」に、「宮の沢」の1店舗が

食品スーパーの「マックスバリュ」と、業態を変えている。

イオン北海道の青柳英樹社長は、「店舗立地、競争環境、自店の店舗配置などを

【表1】西友から継承するイオン北海道の店舗

現在の店舗名	新店名	オープン日(予定)
西友宮の沢店	マックスバリュ宮の沢店	10月26日
西友西町店	イオン札幌西町店	11月2日
西友平岸店	イオン札幌平岸店	11月9日
西友旭ヶ丘店	イオン札幌旭ヶ丘店	11月16日
西友清田店	イオン札幌清田店	11月22日
西友厚別店	イオン札幌厚別店	11月30日
西友福住店	ザ・ビッグ福住店	11月30日
西友元町北二十四条店	ザ・ビッグ元町店	12月7日
西友手稲店	イオン札幌手稲駅前店	12月14日

踏まえ、最も店舗価値を高められるフォーマット(業態)にした」と、各店舗の業態についてそう説明する。ある流通業者は、「特に注目すべきは『福住』と『元町北二十四条』だ。『福住』はディスカウントのロピアが進出する地域だ

から安売りのビッグでガチンコ対決になる。『元町』は自社の総合スーパー「イオン元町」と競合するし、ダイイチが引き継ぐ「アリオ札幌」にも近いからビッグの業態にしたのでしよう。どの店も熟慮された末の業態配置だ」と、分析する。

西友 大久保氏の「深謀遠慮」

ところで西友は、どういう経緯でイオン北海道に引き継がれることになったのか。

西友は、北海道と九州からの撤退を表明、道内の全9店舗をイオン北海道に、九州の全69店舗をイズミ(本社・広島県)に売却した。その理由として西友の大久保恒夫社長は、

「大株主であるKKRの意向であり、また物流コストの負担から北海道と九州の店舗を売却して効率化を図り、本州集中型の店舗展開にするため」としている。

大久保社長は、ヨーカドー出身。セブン&アイにも在籍し、ドラッグイレブンや成城石

井を再建した人物としても知られている。

ちなみに西友は、ウォルマートと資本業務提携を行い(2002年)、その後はウォルマートが西友を完全子会社化(08年)したが、20年にウォルマートは西友株の85%を、米国投資ファンドのKKR(65%)と楽天(20%)に売却。KKRが西友の親会社になり、21年には大久保氏が社長に就任している。

「四国・九州は、かつてはイズミが強かったが、近年イオンが進出して両社によるせめぎ合いが続いている。西友が店舗展開していた北と西のエリアをそれぞれライバル同士のイオンとイズミに引き受けさせることで均衡を



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)